

データ・AIの力がスポーツの未来を変える

びわこ成蹊スポーツ大学 全学必修 数理・AI・データサイエンス教育プログラム

「SPORTS×AI・データサイエンス」

NEW
2021年4月スタート



スポーツの世界では、すでにあらゆる場面において「AI・統計・データサイエンス」の研究・実装が始まっています。
びわこ成蹊スポーツ大学では、2021年度から全学生を対象に新たな教育プログラム「SPORTS×AI・データサイエンス」をスタートします。

カリキュラム

1. 実例から社会におけるデータ・AIの利活用を学ぶ（導入）

数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しています。また、学生の皆さんの生活と密接に結びついています。

数理・データサイエンス・AIが活用されている領域は非常に広範囲で、**トレーニング方法やチームを勝利に導く戦術等に活用されている**だけでなく、日常生活や社会の課題を解決するツールとしても有用なものです。

「導入」では、スポーツ現場や社会におけるデータ利活用事例を示しながら、数理・データサイエンス・AIと様々な適用領域（**スポーツ、ヘルスケア**、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共等）の知見とを組み合わせることで、新たな価値を創出できることを学びます。

社会で起きている変化

社会で活用されているデータ

データ・AIの活用領域

データ・AI利活用のための技術

データ・AI利活用の現場

データ・AI利活用の最新動向

2. 実データを用いて知識と技術を高める（基礎）

「基礎」では、**実データや実課題（学術データ等を含む）を用いて演習**を行います。スポーツ現場等での実例を題材としながら、「データを読む、説明する、扱う」力を身につけ、現場で活用できる実践力を養います。

データを読む

データを説明する

データを扱う

3. データ・AIを活用における留意事項を学ぶ（心得）

数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮することが重要です。

「心得」では、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項などを学びます。

データ・AIを扱う上での留意事項

データ・AIを守る上での留意事項

関連科目

成蹊スポーツ基礎演習
(1前期)

スポーツ学入門
(1通年)

スポーツ学研究法Ⅱ
(2後期)